

第5回演奏会に向けて

日本オーストリア友好150年の記念の年にウィーンから第2回演奏会に続き、アンドレアス・ピクスナー氏を再び指揮者にお迎えできることを心より嬉しく思います。150年前の1869年という日本は明治2年、そしてオーストリア=ハンガリー帝国の形成時期にあたります。モーツァルト最後の作品「レクイエム」の作曲はそこからさらに78年遅りますが、日本は未だ開国されていません。つまり禁教の時代です。その江戸時代の殉教者の物語はイエズス会を通してオーストリアにも伝えられ、今回演奏するミハエル・ハイドンなどの数人のオーストリア人作曲家により作曲されています。日奥友好の歴史は実はその時に始まっていたのかもしれませんが。その日奥の交流を今に伝える「日本における3人のイエズス会士」という絵が掛かるウィーンのイエズス会教会で毎週指揮をするのがピクスナー氏です。創立5年を迎える当団はウィーンとの交流も含めオーストリアの演奏スタイル、発音などにこだわって参って参りました。音楽を通して国際交流を深める事の意義を今後とも探求して参る所存です。ピクスナー氏の手から紡ぎだされるオーストリアの伝統をご堪能ください。

合唱団オラショクラブ代表 奥村泰憲



指揮 アンドレアス・ピクスナー

オーストリアのリートイム・インクライス出身。ウィーン大学にてカトリック教会音楽(主に声楽、オルガン、合唱指揮)課程において最優秀で卒業。科学者からの特別賞も受賞。また音楽教育課程を優秀な成績で卒業。9年間シェーンブルン王宮礼拝堂で合唱団とオーケストラの芸術監督、様々なギムナジウム、ならびにウィーン少年合唱団で教鞭をとった。2004年以来国内外でも広く知られている聖アウグスティン合唱協会において、ウィーンイエズス会教会で毎週日曜日にウィーン交響楽団、オーストリア放送交響楽団、ウィーン国立歌劇場のソリストや有名な音楽家とともに公演を行っている。近年オーケストラの指揮者としても活躍しており、ウィーンフィルハーモニーソリスト、モーツァルトシムフォニアコンツェルトタンテとともに2004年10月5日ウィーン・コンツェルトハウスでのデビューの後、2005年4月にはドヴォルザークの交響曲第9番とシューベルトのミサ曲イ長調を指揮し、ウィーン楽友協会でのデビューを華々しく飾った。



ソプラノ 櫻井愛子

東京都出身。6歳からNHK児童合唱団に所属し合唱に親しみ、東京藝術大学声楽科卒業。現在同大学院声楽専攻在学中。2年間にわたりウィーン国立音楽大学リート・オペラ科科並にオペラ科修士課程に在籍。特にバロック音楽、宗教曲に定評があり、ウィーンではイエズス会教会を始めとする主要な教会でのミサにてソリストとして活躍。2019年3月、シェーンブルン宮殿劇場にて「フィガロの結婚」バルバリーナ役でデビュー。また数多くの現代音楽の初演を務めるなど活動は多岐にわたる。第64回全日本毎日学生音楽コンクール東京大会高校の部第2位、同大会第70回東京大学大会の部第1位、第34回ソレイユ音楽コンクール第3位を受賞。声楽を友野玲子、山口道子、佐々木典子、櫻田亮、藤原治道、E.リーンバウアー、ドイツ歌曲をG.フォンターナの各氏に師事。藝大卒姉妹デュオ「ainana」メンバー。



アルト 増田弥生

宮崎県出身。東京藝術大学を松田幸賀で卒業後、ウィーン音楽大学との交流留学生、及び明治安田生命クオリティ(オブライフ文化財団)の奨学生として、ウィーン音楽大学リート・オペラ科に留学。修了後、帰国し東京藝術大学大学院修了。新国立劇場オペラ研究所第4期を修了。文化庁派遣芸術家在外研修員として再度ウィーンにて研鑽を積む。第10回友愛ドイツ歌曲コンクール第1位、第7回日本音楽コンクール第1位、04年新国立劇場「ファルスタッフ」ページ夫人役で本格的なオペラデビューの後、「ワルキューレ」フリカ、「ナクソス島のアドネト」リナーデ、「ばらの騎士」アンニーナ、「利己な女狐の物語」バーセク夫人、「ワルキューレ」ジークルーネ、ワルトラウテ、「ハルジファル」花の乙女、「カルメン」カルメン等、二期会や新国立劇場をはじめ、多数のオペラに出演している。また、コンサートでも第45回、50回「芸大メサイア」をはじめ、パッサの受難曲やモーツァルト「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」のアルトソロとして活躍している。2019年11月-12月、新国立劇場「椿姫」アンニーナ役で出演予定。



テノール 土崎謙

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。第17回楽奏堂日本歌曲コンクール第1位、中田喜直賞受賞。第76回日本音楽コンクール入選。文化庁新進芸術家派遣員としてウィーンに留学。宗教曲、オーケストラ作品など幅広い作品にソリストとして出演し、G.ロジェストヴェンスキー、H.J.ロッチュ、G.クランらの指揮者と共演、その真摯な音楽アプローチには定評がある。「こども音楽館(魔笛)」でジョン・モンファンと、音楽塾「こもり」で小澤征爾と共演。山田耕柁「黒船」で新国立劇場にデビュー後、「修禅寺物語」「ばらの騎士」「さまよえるオランダ人」で同劇場に出演を重ねる。東京・春・音楽祭、オロ音楽祭ERL(奥)、アルトアディエ音楽祭(伊)など各地の音楽祭にも招かれ、ホルツァー・ノードレント・ハイドンオーケストラと北イタリア5都市においてモーツァルト「レクイエム」で共演、成功を取った。日本声楽アカデミー、日本演奏連盟会員、桐朋学園大学嘱託演奏員。



バス 奥村泰憲

広島少年合唱隊出身。18歳までアルトを歌い、バリトンに転向。エリザベト音楽大学宗教音楽学科卒業、同大学院修了後、セルビアとルーマニアに短期留学。広島市立小学校勤務を経て2005年よりウィーン国立音楽大学声楽科、ブライナー音楽院指揮科・オペラ科で研鑽を積む。2006年ウィーンでシュワツ「マイア受難曲」イエス役でソリストデビュー。また同地でグルック「トリーアのイフェジェニー」トラス王を歌いオペラデビュー。フランス、デンマーク、マドリード、オーストリア、ドイツで独唱会。「天地創造」「第九」「カルミナブラーナ」などソリストを多数務めオペラでは「魔笛」「ラ・ボエーム」「道化師」など40以上の役を演ずる。2010年アルトでの歌唱を再開。シェーンブルク合唱団、パッサコレキウムジャパンの公演や録音に参加。2012年帰国。現在東京バロックコーラス、合唱団オラショクラブ、合唱団玄、MBC室内合唱団、聖アンデレ教会聖歌隊指導者。



ヴァイオリンソロ ケルゴフ加奈子

桐朋女子高等学校音楽科卒業後、ウィーン国立音楽大学演奏科に入学。M.シュニツラー、G.シューベルトの各氏に師事。満場一致の最優秀の成績で同大学ディプロマを取得。ソリストならびに室内楽奏者としてソフィア国際音楽コンクール(ブルガリア)、霧島国際音楽祭など多数の音楽祭やコンクールで受賞。これまでにR. シュルツ、L. ソロコフ、P. シューマイヤー、恵藤久美子、繁樹百合子の各氏に師事。ウィーン美術史美術館にてソリストとして演奏するほか、室内楽奏者としても活動し、音楽祭などに招待され、著名な音楽家と共演している。2008-2014年ウィーン放送交響楽団の一員として、2019年1月まで同楽団契約奏者として演奏活動に参加。ザルツブルグ音楽祭やベートーヴェンフェスト・ボンなどで演奏する。ニムロッド・オペラ・アンサンブルにはコンサートミストレスとして客演するなど、多数のオーケストラに客演。現在は日本国内およびヨーロッパ各国でソロ、室内楽、オーケストラ奏者として活動する。

オラショカンマーオーケストラ

コンサートマスター: 原田陽 第1ヴァイオリン: 加藤えりな 小玉安奈 第2ヴァイオリン: ケルゴフ加奈子 廣川智 廣末真也 ヴィオラ: 飯岡 西村葉子

チェロ: 塚本慈和 櫻井慶喜 コントラバス: 信友裕子 パセットホルン: 杉山伸 塚本陽子 ファゴット: 東実奈 岡田志保

トランペット: 築地徹 小原裕樹 トロンボーン: 奥村尚美 宮下宣子 野々下興一 ティンパニー: 牧野美沙 オルガン: 野村敦子